

1. 調査研究の目的

高齢者社会を迎え、高齢者福祉施設の建設・計画・運営は、益々重要な意味を持つようになってきた。特に、過疎地域における高齢者福祉施設は、安心して豊かな老後を築く拠点の役割を担うものとして、都市部以上にその機能と内容が総合的・多面的に検討されなければならない。

そのためには、従来の福祉施設の基本理念に加えて、活気と潤いそして開放性を基盤に、健康・体力づくりと子どもから高齢者を含めた様々な地域での交流が実現するような工夫と配慮がなされなければならない。

高齢者福祉施設への温水プールの導入と積極的活用は、その具体的方策のひとつとして大いに期待されるものである。

そこで、本調査研究では、高齢者福祉施設に温水プールを導入した場合の効果と問題点を探り、今後、それを積極的に活用するに当たって、どのような対応をすればよいかを具体的に検討することを目的とした。

2. 調査研究の方法

- ①過疎地域の高齢者福祉施設で温水プールを導入した2地区（島根県吉田村、長野県北御牧村）の施設を事例として、地域特性、その導入に至る背景と経緯、目的、設計・建設、運営に至る過程、プール構造上の特徴、人員配置、活用実態等について実地調査を含めて検討した。
- ②同2地区の村民に対して、高齢者福祉施設へ温水プールを導入したことの効果と問題点について、面接法及び質問紙法による意識調査を行った。
- ③これらの調査研究を基礎資料に、今後の高齢者福祉施設の温水プールの導入とその活用についての構造と運営形態、指導プログラム、設備・備品の配置計画、人材養成計画等についてのモデルを検討した。